

# 舞踊作品の分析的研究 (第6報)

## — 題材, イメージを中心として —

磯 島 絃 子

### I はじめに

舞踊は作者の感動から発した内的なイメージを身体運動として形象化し、その感動を動きを通して観賞者の心に伝達するものであり、コミュニケーションの媒体としての運動がその生命である。観賞者はこの知覚できる身体運動を通して、創作者の観念を想像し、認識し、言葉を越えたイメージの世界に遊ぶ。<sup>1)</sup>そこには心的イメージが大きな役割を果たすものと言える。一般にわれわれ人間の根源には2種類のイメージ、すなわち外的イメージと内的イメージがあると言われる。外的イメージは見えるイメージであり、内的イメージは見えないイメージである。前者は知覚作用が作り出す〈表象〉であり、後者は心的操作が作り出す〈想像〉である。<sup>2)</sup>舞踊の創作においても、作者の内面に知覚された情報を想像したり思考することにより、徐々に内的イメージを描き、さらにそれが鮮明に動きイメージとなり運動として意識されたとき、外的イメージつまり表象となるものであると考えられる。そこで舞踊の創作指導においては、つねにイメージとの関わりの中で運動を探求し、選択し、美的に構造化できるように指導することが大切である。

このことから、筆者らは舞踊そのものの全体構造を明らかにするとともに、対象の実態に応じた具体的な指導内容を設定し、系統的に配列することを目的として研究を続けている。このうち、筆者は対象個々の創作過程および作品を分析することによって、舞踊の成立に必要な要因とその機能を年齢別にとらえ、舞踊の創作においてはどの年齢においても、イメージと動きの要因がもっとも重要な要因であるという結果を得、第3報、第4報において報告した。そして昭和52年7月に改訂された文部省学習指導要領のダンス領域においては、指導内容が従来の具体的な題材例を提示した創作中心の指導から、踊る、創る、観るの循環的な活動の中で、内在する情感からのイメージによる表現を重視していく方向に変わったのである。すなわち段階的に配列されている「……の感じ」をイメージとして対象が題材を選択し、心に浮かんだイメージを動きの

イメージへとスムーズにおきかえて動きと結びつけるような指導にポイントがおかれたのである。このことから筆者も第5報においては、第4報までの結果の確かめとさらに、改訂学習指導要領における内容配列の妥当性を検討するために、小学校3年から中学校までの内容として示された11項目の「……の感じ」を刺激として与え、各々の感じから連想される題材の動きのイメージを自由記述により把握し、同時にV. T. R.により動きの分析を行ない、その結果を中学生に焦点をしばって報告した。そしてさらに本稿では、創作過程における内面過程である内的イメージ(想像)から外的イメージ(表象)への過程において、対象がなにを、どのようにとらえるかを知るために、第5報と同様に11項目の「……の感じ」の語から連想される題材のイメージを中心に、小学校3年、5年、中学生および大学生について、年齢別に発達の特性をとらえ、改訂学習指導要領における指導内容と比較考察し、創作指導の基礎資料とするものである。

### II 研究の方法

#### 1 期間および対象

期間 昭和53年6月～7月

対象 岡山市立旭竜小学校3年男女32名

5年男女36名

都窪郡早島町早島中学校2年女子39名

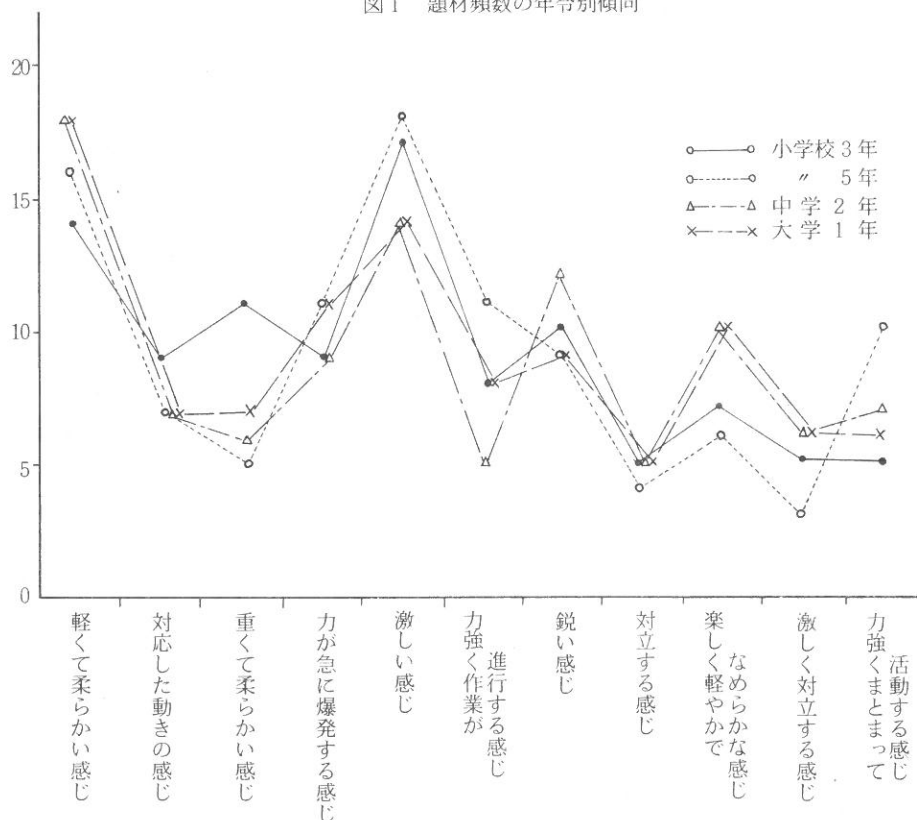
岡山県立短期大学体育科1年49名

#### 1 実験方法

(1) 昭和52年7月改訂の文部省学習指導要領保健体育の表現運動、ダンス領域において、小学校3年から中学校3年までの内容として配列されている11項目の「……の感じ」(表1に示す)を与え、連想される題材名を連記させた。

(2) 11項目の「……の感じ」の中から、動きのイメージの浮かびやすい項目を3項目選択させ、それらについて動きのイメージを記述させた。

図1 題材頻数の年令別傾向



### III 結果と考察

実験(1)のアンケート調査より得られた各項目別の題材例と種類数、頻数を表1に示し、題材頻数の年令別傾向を図1に示した。

全体的にみると年令が進むに従って、どの項目についても連想される題材の種類数も頻数も増え、とくに大学生においては著しく増加している。

項目別に題材の頻数をみると、各年令ともに「軽くて柔らかい感じ」、「激しい感じ」に頻数が集中しており、「対立する感じ」、「激しく対立する感じ」については頻数が少ない。年令別にみると、小学校3年では題材の種類数、頻数ともにもっとも多かったのは「激しい感じ」であり、次に「軽くて柔らかい感じ」である。頻数が少なかったのは「対立する感じ」「激しく対立する感じ」「力強くまとまって活動する感じ」である。「重くて柔らかい感じ」については他の年令に比べ、かなり頻数が多くみられる。5年では、「激

しい感じ」「軽くて柔らかい感じ」について他の項目より圧倒的に頻数が多く、「力が急に爆発する感じ」「力強く作業が進行する感じ」「力強くまとまって活動する感じ」についてもかなり頻数が多くみられる。頻数が少なかったのは「重くて柔らかい感じ」「対立する感じ」「激しく対立する感じ」である。中学生では、「軽くて柔らかい感じ」が圧倒的に多く、次に「激しい感じ」「鋭い感じ」そして次に「楽しく軽やかでなめらかな感じ」となっている。頻数が少なかったのは、「力強く作業が進行する感じ」「対立する感じ」「重くて柔らかい感じ」「激しく対立する感じ」である。大学生では、「軽くて柔らかい感じ」に頻数が集中して多く、次に「激しい感じ」「力が急に爆発する感じ」そして次に「楽しく軽やかでなめらかな感じ」「鋭い感じ」である。頻数が少なかったのは、「力強くまとまって活動する感じ」である。

次に、各々の感じから連想された題材名を1975年

表2 題材の分類結果

動きの感じ 学年	①軽くて柔らかい感じ			②対応した動きの感じ			③重くて柔らかい感じ			④力が急に爆發する感じ			⑤激しい感じ			⑥力強く作業が進行する感じ			⑦鋭い感じ			⑧対立する感じ			⑨楽しく軽やかに始められる感じ			⑩楽しく対立する感じ			⑪力強くまよって活動する感じ																	
	小3	小5	中	小3	小5	中	小3	小5	中	小3	小5	中	小3	小5	中	小3	小5	中	小3	小5	中	小3	小5	中	小3	小5	中	小3	小5	中																		
	小	3	5	小	3	5	小	3	5	小	3	5	小	3	5	小	3	5	小	3	5	小	3	5	小	3	5	小	3	5																		
自然現象	2	20	35	61		3	6	2	1	8	23	17	29	31	47	64	104	56	114		8	6	32	9	38	1	4	6	6	2	2	11	40	1	12	16	1	4	26									
植物			10	31		1	3		1	1							1					1	4	15	2		3	4	4	5	5		2					2										
動物	3	6	6	8	1	4	1	11	4	5						1	1	1			1	8	4	10	3	2	1	15	10	13	12	5	1	1	7			13	6									
人と生活	59	78	40	70	11	7	7	13	43	11	14	27	24	36	13	39	12	5	9	10	16	25	9	43	26	21	34	36	2	13	6	19	6	6	6	11	13	52	6	12								
行事						1	2	11	22	3	1	1				1					2	1	9	2	1		1	2	1	1	1	1	1	8	1	2			3	2	4							
行事	4	27	22	11	10			10		4			4	1	11	1	5	3	4	22	46	10	27	4	1	2	10	7	12	17	2	1	15	9	7	2	11	20	1	7	9	12						
行事													1	3																			2															
舞踊																																																
音楽																																																
美術																																																
文学																																																
思想・空想																																																
思想・感情																																																
抽象概念																																																
その他																																																
計	64	104	92	178	44	43	36	65	49	33	31	66	43	68	48	109	78	117	72	141	40	72	30	83	45	59	61	96	19	24	30	50	34	36	53	97	24	18	32	60	22	62	36	61				

日本体育学会発表の舞踊主題に関する研究 ― 題名分析 ― (松本千代栄, 徳家雅子) の題材用語分類に基づいて分類したものが表2である。

各々の感じについて年令別にみると、

### 1 軽くて柔らかい感じ

小学校3年では物質に関する題材がほとんどであり、その内容はスポンジがとくに多く綿、パンなど一般的な事物の名称があげられている。5年では物質が圧倒的に多くしゃぼん玉、綿菓子、綿、風船などで自然現象(雲)もかなりみられる。中学生では物質(綿、綿菓子、しゃぼん玉など)と自然現象(雲、雪、そよ風、春の陽ざしなど)が同程度で多い。大学生では物質(風船、綿菓子、しゃぼん玉など)と自然現象(雲、そよ風、春風など)が同程度で多く、植物(綿毛)もかなり多くあげられている。また少数ではあるが行動(スキップ、思い出し笑い)、抽象概念(春の息吹、夢)もあげられ題材の範囲が多岐にわたっている。

### 2 対応した動きの感じ

小学校3年では行動に関する題材が多くあげられており、その内容はシーソー、ボクシング、プロレスなどである。物質に関するもの(船、ゆりかごなど)もやゝ数があがっている。5年では行動に関するもの(もちつき、テントづくりなど)が多く、舞踊(ダンス)、物質(時計の中、鏡など)にもやゝ頻数があがっている。中学生では人と身体(鏡に映った姿)行動(けんか、絶交)が多く、抽象概念(線と円)もわずかではあるがあがっている。大学生では人と身体(鏡に映った姿)がもっとも多く、物質(時計、ゴムなど)行動(山びこ、シーソーなど)、抽象概念(光と影、影など)に分散し、題材の範囲が広い。

### 3 重くて柔らかい感じ

小学校3年では物質がほとんどであり、その内容は粘土がほとんどでおもち、のりなど物質そのものの名称が多い。5年では動物(くらげ)、物質(水あめなど)、行動(もちつき)が同程度であるが頻数は少ない。中学生では物質(おもち、こんにゃく、粘土など)と自然現象(雪、秋の空、入道雲など)に頻数がわずかつ分散している。大学生では物質(ふとん、おもち、水あめなど)と自然現象(入道雲、雪、雨雲など)が多くみられ、わずかではあるが思想感情があがっており、苦悩の後のあきらめ、緊張からの安らぎなど単一感情でなく複合感情があがっている。

### 4 力が急に爆発する感じ

小学校3年では物質(花火、ダイナマイト、爆弾など)と自然現象(火山)がほとんどである。5年では3年と同様に物質(ダイナマイト、花火、爆弾など)と自然現象(火山、いなづま)がほとんどである。中学生では自然現象(火山の噴火)が圧倒的に多く、物質(花火、ダイナマイト)もやゝあがっており、わずかではあるが、思想感情(怒り)もあがっている。大学生では自然現象(火山の噴火、雷、なだれ、洪水など)がもっとも多く、物質(花火、爆弾など)が次に多い。思想感情(怒り、激怒など)、行動(風船が割れる、暴動、戦争のぼっ発など)もかなり多くあがっている。

### 5 激しい感じ

各年令とも自然現象に関するものが圧倒的に多く、その内容は小学校3年では台風、地震、嵐、火山など、5年では夕立ち、嵐、雷に集中して多く、波、いなづま、台風などがあがっている。中学生では嵐がもっとも多く、他に台風、津波などがあがり、大学生も嵐がもっとも多く他に台風、夕立ち、雷などがあがっている。自然現象の他に各年令とも物質にやゝ頻数が見られ、その内容は爆弾、爆竹、花火など、中学生では炎、大学生では炎、原子爆弾などである。大学生において、その他の題材として思想感情(感情、憎しみ、怒り)があがっている。

### 6 力強く作業が進行する感じ

小学校3年では行動(畑仕事、田植えなど)と物質(ブルドーザー、ローラーなど)がほとんどである。5年も3年と同様に行動(家を建てる、道路工事)が圧倒的に多く、物質(ブルドーザー、コンクリートミキサーなど)もかなり多くあがっている。中学生では全体の頻数が非常に少なく、行動(行進、流れ作業など)、物質(工場、ブルドーザー)、人と身体(カルメン、大工など)の範囲のみである。大学生では物質(機械、ブルドーザー、機関車など)、行動(ビル建設、労働など)に多く、自然現象がわずかである。

### 7 鋭い感じ

小学校3年では物質(ナイフ、刀、包丁など)がもっとも多く、他に動物(狼、犬、猫など)、自然現象(風、たつまき、渦巻など)も少数ではあるがあがっている。5年では自然現象(つらら、いなづま、雷、嵐など)がもっとも多く、物質(ダイナマイト、ナイフ、庖丁など)もかなり多くあがっている。中学生で

は物質（ナイフ、針、刀、剣など）が圧倒的に多く、動物（牙、猫の目など）、自然現象（流氷、夕立ちなど）もやゝみられ、またわずかではあるが、抽象概念（直角、直線）があがっている。大学生では自然現象（いなづま、雷など）と物質（針、刃物、ガラスの破片など）が同程度でもっとも多く、植物（とげ、枝など）もやゝみられ、わずかではあるが思想感情（冷たい心、緊張）もあがっている。

## 8 対立する感じ

全体的に連想された題材の頻数は少ないが、小学校3年では行動（にらめっこ、兄弟げんかなど）、5年では物質（だるま、時計など）と行動（すもう、キャンプファイヤー）、中学生では行動（けんか、戦争）物質（水と油、磁石）、自然現象（川の流れ、台風）にやゝ頻数がみられ、わずかに抽象概念（正義と悪）もあがっている。大学生では行動（けんか、仲間われ）、物質（水と油、バネなど）、抽象概念（黒と白、光と影）、自然現象（太陽と雲、海と山）、思想感情（心の中の争い、反発）など同程度で広い範囲から題材をとらえている。

## 9 楽しく軽やかでなめらかな感じ

小学校3年では動物（蝶）がもっとも多く、次に音楽（メロディー、歌）があがり、5年では物質（風船、花火、ポスターなど）、動物（蝶）が比較的多く音楽（音楽、歌）もやゝあがっている。中学生では行動（トランポリン、スケートなど）、動物（白鳥、小鳥など）自然現象（春の風、春の陽ざしなど）が比較的多い。大学生では自然現象（春、そよ風、春風など）が圧倒的に多く、物質（しゃぼん玉、ボールなど）、動物（蝶、小鳥）、行動（ピクニック、遠足）にもやゝ頻数がみられ、他に、わずかではあるが想像（森の妖精、風の精）、思想感情（希望、喜び、ときめき）もあがっている。

## 10 激しく対立する感じ

全体的に頻数が少なく、小学校3年では行動（にらめっこ、殺し）、物質（銅像）、植物（森の木、竹）、動物（犬のけんか）にわずかずつ頻数が分散している。5年では全体の頻数が非常に少なく、人と身体（白血球と病原菌）物質（だるま）にわずかに頻数があがっている。中学生では自然現象（滝、岩に打ちつける波など）、行動（大げんか、大戦争など）、物質（炎と水）にやゝ頻数があがっている。大学生では行動（友

人同志のけんか、戦争など）、自然現象（嵐の波と岩、北風と木など）がかなり多く、物質（水と油）もやゝ頻数がみられ、わずかではあるが抽象概念（白と黒、光の反射など）もあがっている。

## 11 力強くまとまって活動する感じ

小学校3年では全体の頻数が少なく、物質（トラック、機械など）、動物（狼のけんか、象の大群など）にやゝ頻数があがっている。5年では全体の頻数が多く、物質（時計の中、機械など）がほとんどである。中学生では動物（ありの行進、象の大群）、行動（軍隊、学級会）にやゝ頻数がみられる。大学生では自然現象（波、台風、入道雲など）がもっとも多く、物質（機械、蒸気機関車など）、行動（行進、軍隊など）もやゝ頻数があがっている。

次に11項目の「……の感じ」の中から具体的な動きのイメージの浮かびやすいものを3項目選択させ、それを集計したものが表3である。動きのイメージの浮かびやすい項目について年令別にみると、小学校3年では「力が急に爆発する感じ」がもっとも多く、次に「対応した動きの感じ」「楽しく軽やかでなめらかな感じ」となっている。5年では「激しい感じ」がもっとも動きのイメージが浮かびやすく、次に「力が急に爆発する感じ」「鋭い感じ」である。中学生では「激しい感じ」がもっとも多く、次に「力が急に爆発する感じ」「軽くて柔らかな感じ」「楽しく軽やかでなめらかな感じ」である。大学生では「激しい感じ」がもっとも動きのイメージが浮かびやすく、次に「楽しく軽やかでなめらかな感じ」「軽くて柔らかな感じ」「力が急に爆発する感じ」である。

以上の結果を文部省学習指導要領の指導内容と対照し年令別に考察する。

小学校3年では学習指導要領に示された内容は「軽くて柔らかな感じ」「対応した動きの感じ」であるが、実態からは「軽くて柔らかな感じ」については、連想された題材の頻数は多かったが、動きのイメージに結びつかず、指導要領との一致をみなかった。「対応した動きの感じ」については題材の頻数もかなり多く、動きのイメージも浮かびやすい項目として指導要領の内容とも一致し、妥当であることが得られた。小学校5年では「激しい感じ」については、連想された題材の頻数も多く、動きのイメージも浮かびやすい項目として指導要領の内容として妥当であることが確かめられたが、もう一方の「力強く作業が進行する感じ」については、

表3 動きのイメージの浮かんだ項目についての集計結果

項 目	学 年			
	小3年	小5年	中 学	大 学
1 軽くて柔らかい感じ	3	12	18	24
2 対応した動きの感じ	16	5	6	2
3 重くて柔らかい感じ	9	5	2	4
4 力が急に爆発する感じ	18	15	20	23
5 激しい感じ	10	20	25	33
6 力強く作業が進行する感じ	4	11	3	6
7 鋭い感じ	6	13	2	9
8 対立する感じ	4	1	1	1
9 楽しく軽やかでなめらかな感じ	13	5	13	29
10 激しく対立する感じ	1	1	4	11
11 力強くまとまって活動する感じ	6	2	3	4
計	90	90	97	146

題材は浮かんでも動きのイメージにつながらず、指導要領との一致をみなかった。中学生では「楽しく軽やかでなめらかな感じ」については、題材の頻数も比較的多く、動きのイメージの浮かびやすいものとして指導要領と一致したが、他の「激しく対立する感じ」「力強くまとまって活動する感じ」については題材の頻数も少なく動きのイメージも浮かびにくい項目であり、個人の創作という実験の条件とも合わせて指導要領との一致が得られなかった。

#### IV ま と め

以上のことをまとめると、11項目どの項目についても連想される題材の種類、頻数ともに年令が進むにつれ増加している。とくに大学生において連想される題材数は著しく増加している。題材の範囲は小学校3年、5年では目に見えるもの、形のあるものなど身近な環

境からの題材がほとんどを占めている。中学生ではそれらのものの他に、芸術、思想感情などへ範囲が広がり、大学生ではさらに抽象概念などへと広がっている。内容的には小学校3年、5年、中学生では単なる事物の名称をあげたものが多いが、大学生になると、事物に感情を託したもの、複合語にしたものなど多様である。また、動きのイメージにつながりやすいものとして改訂学習指導要領の内容と一致した項目は小学校3年の「対応した動きの感じ」、5年の「激しい感じ」、中学校の「楽しく軽やかでなめらかな感じ」である。本稿では「……の感じ」の語をイメージとして、対象が連想する題材の範囲と動きのイメージへの結びつきの年令別傾向を把握するにとどまったが、今後はこれを基礎資料としてさらに詳しく研究を進め、対象の発達段階に合った指導内容を設定していきたい。

#### 文 献 注

- 1) S. K. ランガー著、池上、矢野訳 芸術とは何か 岩波新書 P8～10 (1975年)
- 2) 岡田晋著 映像〈人間とイメージ〉 美術出版社 P80 (1977年)

#### 参 考 文 献

- 小学校指導書 体育編 文部省 (1978年)  
 中学校指導書 保健体育編 文部省 (1978年)  
 日本体育学会第26回大会号 (1975年) P561 松本千代栄、徳家雅子 「舞踊主題に関する研究」  
 S. K. ランガー著、池上、矢野訳 芸術とは何か 岩波新書 (1975年)  
 序説運動学Ⅷ章 「運動と表現」 (松本千代栄) 大修館 (1976年)  
 磯島絃子 岡山県立短期大学研究紀要第23号 (1979年)  
 「舞踊作品の分析的研究 (第5報) — 中学生におけるフレーズ創作の分析 —」

昭和55年3月31日受理









